

IR NAVI

アイアール ナビ



vol.1

株主の皆様へ

第1期 期末のご報告

(平成18年3月期)



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、昨年10月、株式移転により、三菱化学(株)と三菱ウェルファーマ(株)の共同持株会社として設立されました。これにより、当社グループは、グループのポートフォリオ・マネジメントを行う当社のもと、基幹事業会社である三菱化学(株)及び三菱ウェルファーマ(株)を中心に積極的な事業活動を展開しております。

当期(連結決算上は、平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)におきましては、平成17年4月から3ヵ年間の中期経営計画である「革進-Phase2」に沿って、重点分野における積極的な投資等「事業の集中と選択」、コスト削減等の諸施策にグループを挙げて取り組んでまいりました。当社グループの当期連結業績につきましては、その詳細は次頁以降に記載の通りであります。原料価格の高騰に伴う製品価格の是正等により、売上高は2兆4,089億円となりました。また、営業利益は、定期修理の実施等により1,336億円となりましたものの、経常利益は、持分法利益の向上や為替差益の増加等により1,435億円となり、当期純利益は855億円となりました。こうした状況等を踏まえ、当期(平成17年10月3日から平成18年3月31日まで)の利益配当金につきましては、1株につき8円とさせていただきます。

当社グループは、引き続き「革進-Phase2」に沿って、成長戦略を遂行していくとともに、財務体質の改善等経営基盤の強化にも積極的に取り組んでまいります。また、当社設立時に新たに制定したグループ理念「Good Chemistry for Tomorrow 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」のもと、CSR(企業の社会的責任)活動を強化するとともに、コンプライアンス(法令・企業倫理の遵守)等の一層の推進を図り、社会から信頼される企業グループを目指してまいります。

当社グループは、これらの諸施策の推進に一丸となって邁進し、グループとしての企業価値の一層の向上を図ることにより、株主の皆様のご期待に応えるよう努力してまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

取締役社長 富澤龍一

IRNAVI

アイアール ナビ

とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報(IR情報)をナビゲーティング(道案内)し、よりわかりやすく株主の皆様にご提供していきたいという意味を込めております。

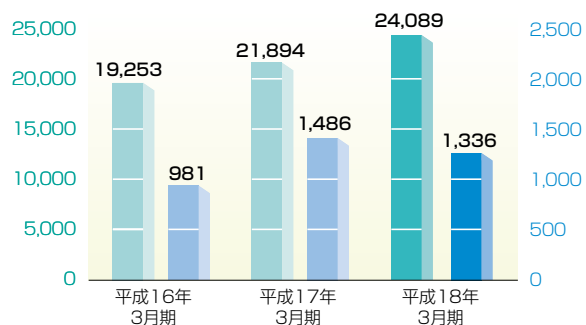
CONTENTS

株主の皆様へ	1	財務諸表	9
連結FINANCIAL HIGHLIGHTS	2	CSR情報	12
セグメント別の概況(連結)	3	株式の状況	13
FOCUS	6	会社概要	14

連結 FINANCIAL HIGHLIGHTS

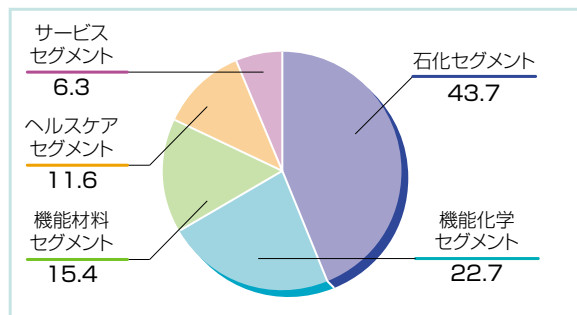
売上高 / 営業利益

(単位: 億円)



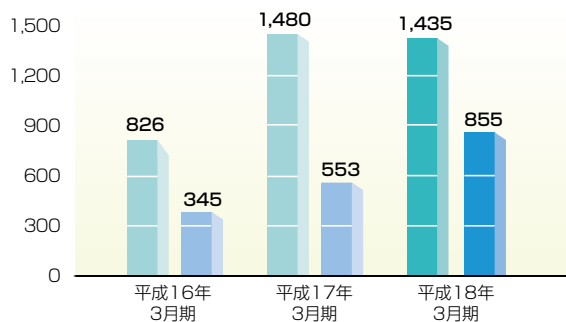
セグメント別売上高の構成比

(単位: %)



経常利益 / 当期純利益

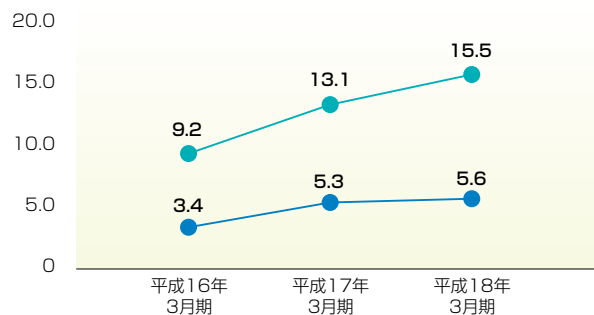
(単位: 億円)



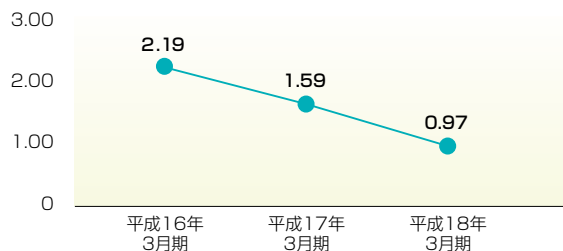
株主資本当期純利益率 / 総資産利益率

(単位: %)

(税引前当期利益ベース)



D/E(デット・エクイティ)レシオ



※D/Eレシオとは、株主資本に対する有利子負債の比率で、財務体質の健全性を表す指標の一つです。比率が小さいほど健全性が高いことを示します。

平成18年3月期の数値は、当社が平成17年10月に株式移転により設立されたことから、三菱化学(株)の中間連結決算数値を引き継いだ連結決算数値であります。平成16年3月期及び平成17年3月期の数値は、三菱化学(株)の連結決算数値を記載しております。

なお、セグメント別の概況(連結)(3頁から5頁まで)に記載の数値につきましても、上記と同様であります。

セグメント別の概況(連結)

石化セグメント

石油化学部門の基礎素材であるエチレンの生産量は、三菱化学(株)水島事業所での定期修理の実施等により、127万トンと前期を5%下回りました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料及び合成樹脂は、国際的にナフサ価格が著しく高騰する状況下、国内では、需要が概ね高水準で推移する中で製品価格の是正に努めましたが、海外ではスチレンモノマー、エチレングリコール、テレフタル酸等の市況が弱含みで推移しました。

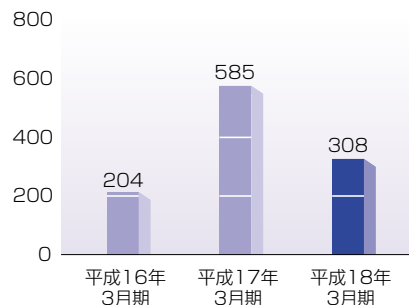
以上の結果、売上高は1兆539億円、営業利益は308億円となりました。



鹿島事業所エチレンプラント
最新鋭分解炉
(三菱化学(株))

営業利益

(単位:億円)



機能化学セグメント

機能性樹脂、食品機能材等は、引き続き順調に推移しました。情報電子関連製品のうち、光ディスクは、販売価格の下落を数量増で補い堅調に推移しました。OPCドラム、トナー等のプリンタ・コピー機関連材料、カラーレジスト等のディスプレイ材料は、旺盛な需要を背景に増販となりました。炭素事業のうち、コークスは、第4四半期以降値下がり基調にあるものの全般に好調でありました。肥料は、原料価格高騰のもと、合理化等に努めました。

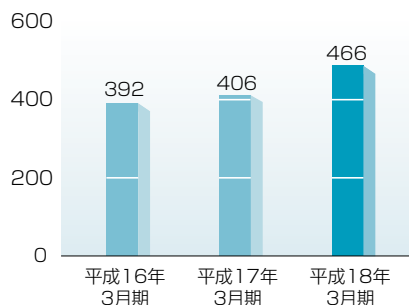
以上の結果、売上高は5,487億円、営業利益は466億円となりました。



世界初の8倍速書き込みに対応した
片面2層DVD+R DL8.5GBディスク
(三菱化学メディア(株))

営業利益

(単位:億円)



機能材料セグメント

各種フィルム、複合フィルム及びシート製品は、液晶ディスプレイ用保護フィルム等が情報電子関連産業の旺盛な需要に支えられ、好調に推移しました。複合材等の建築材料及び炭素繊維、アルミナ繊維等の産業資材は、順調に売上げを伸ばしました。

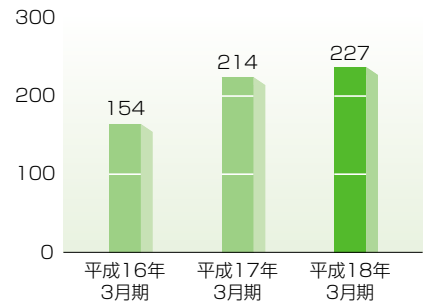
以上の結果、売上高は3,731億円、営業利益は227億円となりました。



自動車の排気浄化装置に使用される
アルミナ繊維製部材
(三菱化学産資(株))

営業利益

(単位:億円)



ヘルスケアセグメント

医薬品は、一部製品で減収となりましたが、脳保護薬「ラジカット注」や抗血小板剤「アンブラーグ」等の主力製品の販売が堅調に推移しました。臨床検査事業は、病院内検査の一括受託等による新規取引の増加等もあって売上げが増加し、治験検査事業も順調に推移しました。

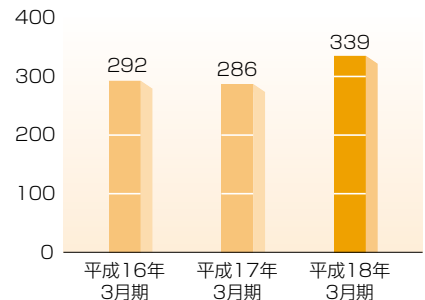
以上の結果、売上高は2,805億円、営業利益は339億円となりました。



抗血小板剤「アンブラーグ」
(三菱ウェルファーマ(株))

営業利益

(単位:億円)



セグメント別の概況(連結)

ヘルスケアセグメント

医薬品の開発状況(三菱ウェルファーマ(株))

● 開発パイプライン

- 循環・代謝
 ○ 精神・神経
 ○ 呼吸器・免疫
 ○ 肝疾患・癌
 ○ その他
 ○ 効能追加、剤型追加



ステージ変更

- コレバイン (高リン血症) …フェーズII→フェーズIII
- ノバスタン (脳血栓・中国) …フェーズIII→申請中
- ラジカット (筋萎縮性側索硬化症) …フェーズII→フェーズIII

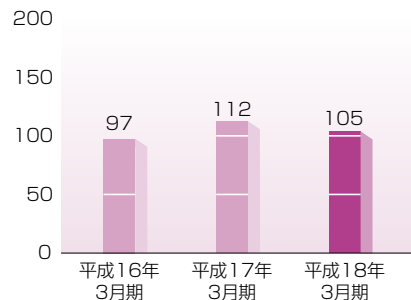
サービスセグメント

エンジニアリング部門及び物流部門を中心に、概ね所期の目標通りに各事業が進展しました。

以上の結果、売上高は1,524億円、営業利益は105億円となりました。

営業利益

(単位:億円)



中期経営計画「革進－Phase2」の概要

成長と飛躍に向けて、事業の選択と重点的資源投入を徹底し、グループ全体の持続的な収益向上を目指します。

基本方針

1. 成長戦略の遂行

自動車、情報電子、環境・エネルギー、生活関連及び医療の5つの重点市場において

- 成長対象事業の選別と重点的な資源投入
- 新商品化、新プロセス化、新ビジネスモデル化の推進

2. 経営基盤の強化

- 財務体質改善
- 国内主要生産拠点の戦略的再編
- 生産革進の進化
- 人材の確保、育成の強化

3. グループ総合力の強化

- グループ経営の深化
- CSR活動の強化

計画期間

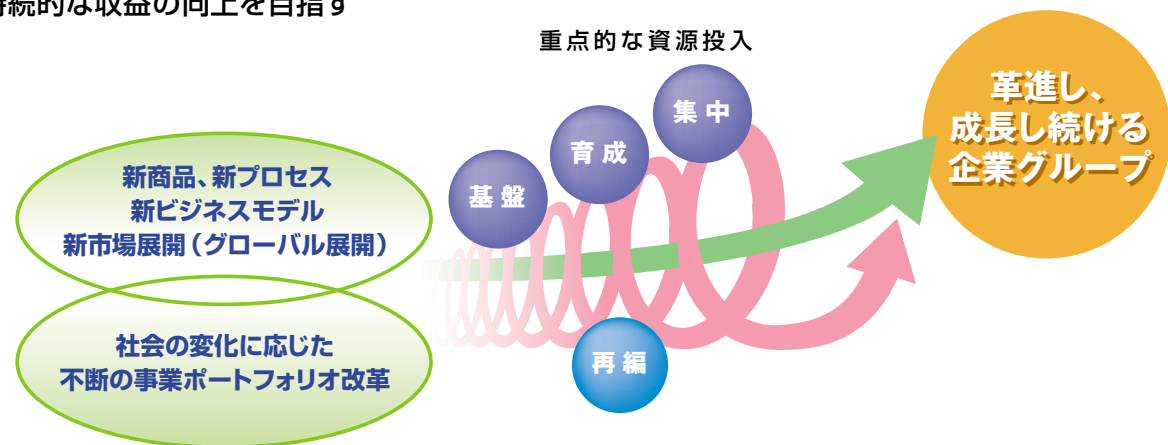
平成17年4月から平成20年3月までの3ヵ年

数値目標

平成20年 3月期	連結営業利益	1,400億円以上
	連結総資産利益率	5.5%以上
	連結D/Eレシオ	1.5以下

基本コンセプト

石油化学、機能商品及びヘルスケアの3分野を柱として、持続的な収益の向上を目指す



「革進－Phase2」の進捗状況

当期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）は、中期経営計画である「革進－Phase2」の初年度に当たりますが、石油化学、機能商品及びヘルスケアの3分野において、「革進－Phase1」で決定した施策の実施を含め、成長戦略遂行のための各種施策を積極的かつ着実に実施しました。



石油化学分野

集中事業のグローバル展開及び国内基盤事業の維持強化に向けて、諸施策を積極的に実施しました。また、体質強化に向けて、事業再編等の施策についても継続的に実施しました。当期に実施又は実施を決定した主な事項は、以下の通りです。

- 寧波三菱化学有限公司が中国・寧波市大榭開発区において、高純度テレフタル酸製造設備の建設を開始（昨年5月）
- 三菱化学㈱が鹿島事業所において、オレフィン・アロマセンターでの原料多様化対応のための設備増強工事を完了（昨年12月）
- 日本ポリプロ(株)が鹿島工場において、ポリプロピレン製造設備を新設することを決定（昨年12月）
- エムシーシー・ピーティーイー・インディア社がインド・ハルディア工場において、高純度テレフタル酸製造設備を増設することを決定（昨年12月）



高純度テレフタル酸製造設備
（エムシーシー・ピーティーイー・インディア社）

機能商品分野

自動車や情報電子分野を中心に、引き続き積極的な事業展開を行いました。当期に実施又は実施を決定した主な事項は、以下の通りです。

- 三菱化学産資(株)が、炭素繊維・樹脂の複合材とケイ素を使用した軽量・高性能の自動車用ブレーキディスク材料の開発に成功(昨年7月)
- 三菱化学(株)が坂出事業所において、ハイブリッド自動車向けに需要の増大が期待されるリチウムイオン二次電池用次世代正極材の製造設備を新設(昨年9月)
- 化成オプトニクス(株)が小田原工場において、液晶バックライト用蛍光体の製造設備を増設(昨年9月)
- 三菱化学産資(株)が坂出製造所において、自動車向けを中心に需要の増大が期待されるアルミナ繊維の製造設備を新設することを決定(本年3月)
- 三菱化学(株)が黒崎事業所において、液晶ディスプレイ用カラーレジストの製造設備を増設(本年3月)



液晶ディスプレイ用
カラーレジスト

ヘルスケア分野

国際創薬企業を目指して、三菱ウェルファーマ(株)が引き続き積極的な事業展開を行いました。また、変化する医療ニーズに対応するための施策を積極的に実施しました。当期に実施又は実施を決定した主な事項は、以下の通りです。

- 三菱ウェルファーマ(株)が三菱ファーマドイツ社を通じて、欧州における初の自社製品として、選択的抗トロンピン剤「Argatra(アルガトラ)」(一般名:アルガトロバン)の販売をドイツ国内で開始(昨年7月)
本剤については、三菱ファーマヨーロッパ社がスウェーデン、オランダ、オーストリア、デンマーク、アイスランド及びノルウェーにおいて販売承認を取得しており、三菱ウェルファーマ(株)は、本剤の販売を通じて欧州での事業基盤の確立を図ることとしています。
- (株)三菱化学ビーシーエル、(株)三菱化学ヤトロン及び(株)三菱化学安全科学研究所が、変化する医療ニーズ及び事業環境に柔軟かつ機動的に対応するため、3社統合の検討を開始(本年1月)



「国際創薬企業」への
足掛かりとなる
「Argatra(アルガトラ)」

財務諸表

連結貸借対照表

(単位:億円)

資産の部

科目	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)
1 流動資産	9,883	9,148
現金・預金	653	552
受取手形・売掛金	4,919	4,710
たな卸資産	3,175	2,777
その他	1,154	1,131
貸倒引当金	△19	△23
2 固定資産	11,382	10,556
有形固定資産	6,866	6,749
投資有価証券	3,442	2,578
その他	1,073	1,228
資産合計	21,266	19,705

1 流動資産

流動資産は、原料価格の高騰によるたな卸資産の増加等により増加しています。

2 固定資産

固定資産は、保有株式の時価上昇に伴う投資有価証券の増加等により増加しています。

負債、少数株主持分及び資本の部

科目	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)
流動負債	8,912	8,825
支払手形・買掛金	3,899	3,394
短期金融債務	2,730	3,272
その他	2,282	2,158
固定負債	5,104	5,026
長期金融債務	3,636	3,768
その他	1,468	1,257
負債合計	14,016	13,851
少数株主持分	688	1,394
資本金	500	1,450
資本剰余金	4,128	1,171
利益剰余金	2,278	1,629
土地再評価差額金	18	19
その他有価証券 評価差額金	873	377
為替換算調整勘定	△37	△179
自己株式	△1,201	△9
3 資本合計	6,560	4,459
負債、少数株主持分 及び資本合計	21,266	19,705

3 資本合計

資本合計は、当期純利益及びその他有価証券評価差額金の増加、株式移転に伴う少数株主持分からの振替等により増加しています。

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当期	前期
	(自平成17年4月 1日 至平成18年3月31日)	(自平成16年4月 1日 至平成17年3月31日)
売上高	24,089	21,894
売上原価	18,885	16,688
販売費・一般管理費	3,867	3,720
営業利益	1,336	1,486
営業外収益	362	277
営業外費用	263	282
経常利益	1,435	1,480
特別利益	59	95
4 特別損失	344	510
税金等調整前当期純利益	1,150	1,066
法人税、住民税及び事業税	352	357
法人税等調整額	△149	51
少数株主利益	92	104
当期純利益	855	553

4 特別損失

特別損失は、固定資産減損損失の減少等により減少しています。

連結財務諸表(9頁から11頁まで)における当期(平成18年3月期)の数値は、当社が平成17年10月に株式移転により設立されたことから、三菱化学㈱の中間連結決算数値を引き継いだ連結決算数値であります。また、前期(平成17年3月期)の数値は、三菱化学㈱の連結決算数値を記載しております。

財務諸表

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当期	前期
	(自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	(自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
税金等調整前当期純利益	1,150	1,066
減価償却費	881	877
たな卸資産	△343	△250
営業債権債務他	107	535
5 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,797	2,228
有形・無形固定資産取得	△974	△700
投資有価証券取得	△46	△98
その他	277	222
投資活動によるキャッシュ・フロー	△743	△576
有利子負債	△769	△1,583
配当金他	△201	△130
財務活動によるキャッシュ・フロー	△971	△1,713
現金・現金同等物に係る換算差額	14	4
現金・現金同等物の増減	96	△57
現金・現金同等物の期首残高	525	575
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	△6	7
現金・現金同等物の期末残高	615	525

5 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、原料価格の高騰によるたな卸資産等の運転資金の増加等により減少しています。

(株)三菱ケミカルホールディングス(単独)

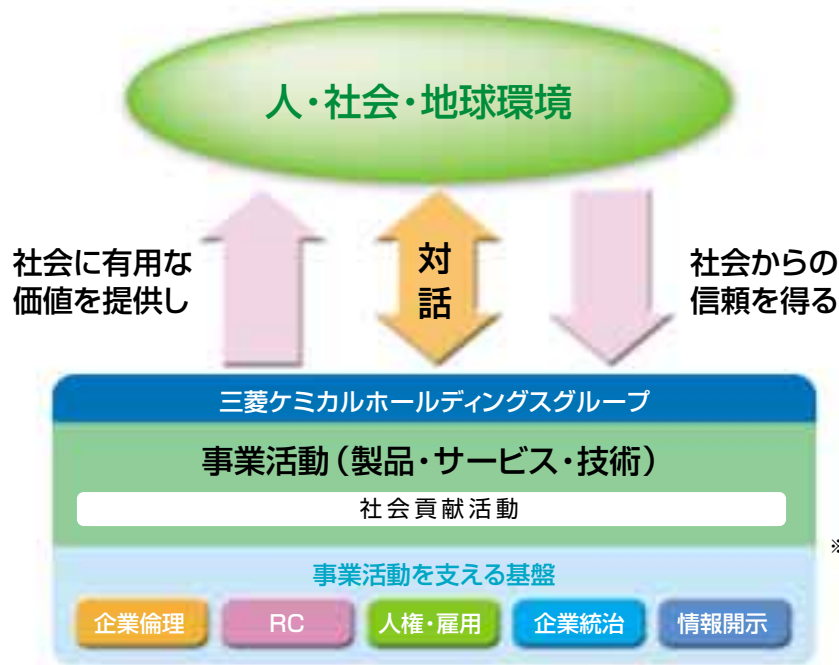
利益処分

(単位:億円)

科目	当期
(当期末処分利益の処分) 当期末処分利益	0
計	0
次期繰越利益	0
計	0
(その他資本剰余金の処分) その他資本剰余金	299
計	299
株主配当金	144
	(1株につき8円)
その他資本剰余金次期繰越高	155
計	299

社会からの期待に応え、 社会からより高い信頼を得られる企業グループへ。

当社グループでは、中期経営計画である「革進-Phase2」のもと、主要テーマの一つとして「CSRの強化」に取り組んでいます。



当社グループは、企業活動の基盤は社会からの信頼にあると考え、企業の社会的責任を自覚するとともに、化学や医薬分野を核とした事業活動を通じて、社会に有用な製品・サービスを提供し、豊かで健康な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

そのためには、個々の事業活動において、それが社会に有用な価値を提供しているか、社会からの信頼を得られているか絶えず検証し、自らをより良い方向に変えていくこと、すなわちグループ理念「Good Chemistry for Tomorrow 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」を実践することが、社会の持続可能な発展に貢献することだと考えています。

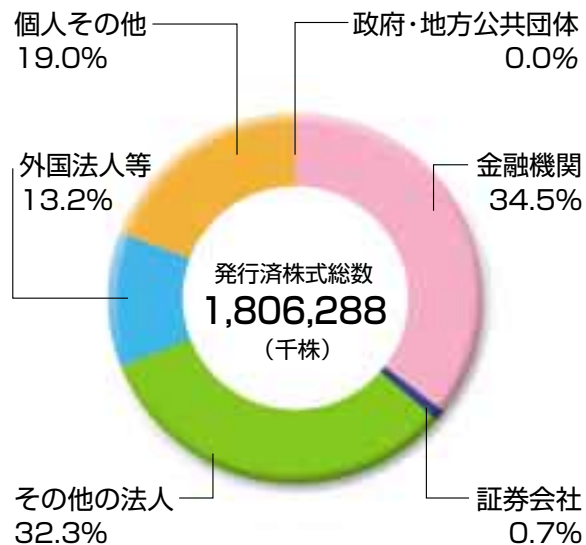
株式の状況

会社が発行する株式の総数6,000,000千株
 発行済株式総数1,806,288千株
 株主総数197,875名
 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口	71,480	3.9
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口	63,815	3.5
明治安田生命保険相互会社	60,644	3.3
武田薬品工業株式会社	51,529	2.8
日本生命保険相互会社	49,428	2.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	48,828	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	42,312	2.3
太陽生命保険株式会社	23,547	1.3
三菱UFJ信託銀行株式会社	18,992	1.0
第一生命保険相互会社	18,423	1.0

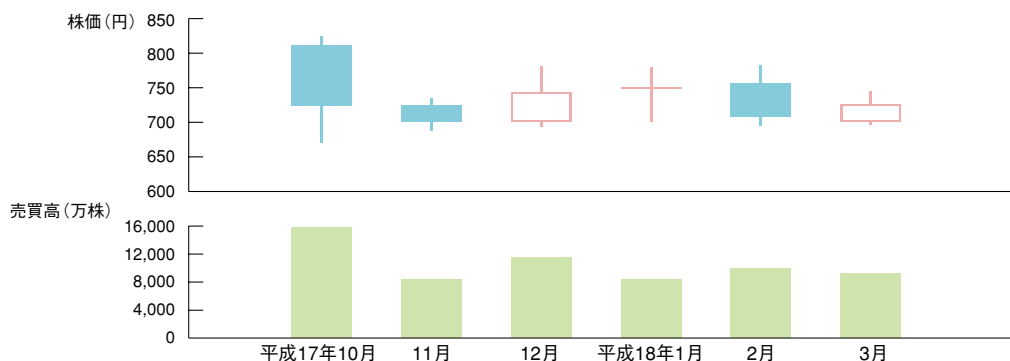
※上記のほか、当社の子会社である三菱化学㈱が424,664千株
 (株主名簿上は同社名義となっているものの、実質的には所有して
 いない株式2千株を含む。)の当社株式を保有しておりますが、当該
 株式については、旧商法第241条第3項の規定により議決権を有し
 ておりません。

所有者別株式分布の状況



※「その他の法人」には、当社の子会社である三菱化学㈱及び三菱ウェル
 ファーマ㈱の保有分(合計24.0%)が含まれております。

株価及び株式売買高の推移(東京証券取引所)



会社概要

会社概要

(平成18年3月31日現在)

商号	株式会社三菱ケミカルホールディングス (英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
本店所在地	〒108-0014 東京都港区芝五丁目33番8号 (第一田町ビル)
資本金	500億円

取締役

(平成18年6月28日現在)

富澤 龍一	代表取締役 取締役社長
山田 洋輔	代表取締役 副社長執行役員 社長補佐／総務・人事、 広報、CSR推進、 監査担当 コンプライアンス推進統括執行役員
小峰 健嗣	代表取締役
佐藤 隆一	取締役 常務執行役員 経営戦略担当
吉村 章太郎	取締役 常務執行役員 経営管理、IR担当
船田 昌興	取締役
下宿 邦彦	取締役
小林 喜光	取締役

監査役

(平成18年6月28日現在)

吉田日出昭	監査役(常勤)
高垣 嘉一	監査役(常勤)
岸 隆康	監査役(常勤)
杉原 弘泰	監査役 弁護士
竹原 相光	監査役 公認会計士

※高垣嘉一、杉原弘泰及び竹原相光の3氏は、社外監査役です。

執行役員

(平成18年6月28日現在)

中山 清	常務執行役員 ヘルスケア戦略担当
宇野 研一	執行役員 経営戦略室長
大平 教義	執行役員 総務・人事室部長
加賀 邦明	執行役員 ヘルスケア戦略室長
清木 俊行	執行役員 CSR推進室部長
津田 登	執行役員 監査室長
服部 清隆	執行役員 CSR推進室部長
藤澤 晃一	執行役員 総務・人事室長 兼CSR推進室長

当社IRサイトをご活用下さい。

当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1)定時株主総会 3月31日 (2)期末配当金 3月31日 (3)中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に掲載いたします。
◎公告掲載URL (<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

郵便物送付先及び 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号(〒171-8508)

電話お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-707-696

住所変更、配当金振込指定・変更、
単元未満株式買増・買取請求に必要な各用紙及び
株式の相続手続依頼書のご請求は

(株主名簿管理人の
フリーダイヤル) 0120-864-490
※24時間承っております。

当社はインターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。

〈ホームページアドレス〉

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>